

里山再生を目指す「甲州市・オルビスの森」プロジェクト オルビス、社員ボランティア約70名が間伐作業 2002年から14年間継続して社員参加型の環境保全活動を実施

ポーラ・オルビスグループのオルビス株式会社(本社:東京都品川区、社長:阿部嘉文)は、山梨県甲州市に広がる整備の遅れた森林を里山として再生する「甲州市・オルビスの森」プロジェクトの一環として、10月3日(土)に従業員ボランティア及び関係者約70名が間伐作業を行い、ヒノキなど約20本を伐採しました。

間伐とは、十分な光や栄養が一本一本の木々に行き渡る様、込みすぎた立ち木を一部抜き取りすることで、森林全体を育んでいくためにはとても重要なメンテナンス作業の一つです。オルビスは2002年から継続して社員ボランティアが植林や下草刈りを実施してきましたが、昨年より間伐もプログラムに加えられました。



オルビスは1987年の創業以来、通信販売という業態から生じる紙の消費を主とする事業活動における地球環境への負荷を常に意識し、環境に配慮した商品開発、サービスを心がけてきました。2002年からは公益財団法人オイスカとの協働により国内外での環境保全活動を支援、国内では山梨県における社員参加型の環境ボランティアイベントを年2回、開催しています。またこれらの継続的な取り組みに対して、2006年、2014年の2度にわたり山梨県知事より感謝状が授与されています。

「甲州市・オルビスの森」について

甲州市塩山上小田原の広さ約100ha(東京ドーム約21個分の広さ※)の市有林。公益財団法人オイスカの仲介により、オルビスと甲州市が同地の整備、保全に向けた協定を2011年1月31日に締結しました。オルビスは2012年度から植林や下草刈り、間伐などの整備を行い、人と森をつなぐ里山として再生させるプロジェクトを推進しています。

※東京ドームの敷地面積を46,755㎡として換算

【「森の積み木広場」体験イベントを同時開催】

国内の林業活性化においては間伐によって生じる木材の有効利用も重要な課題となっています。

オルビスでは東日本大震災の復興支援活動「いつもプロジェクト」において、震災により野外での活動が制限されている東北の子どもたちのために、国産の間伐材から生まれた積み木で遊ぶ機会を提供する「森の積み木広場」開催を支援しています。

当日は間伐作業の後、参加社員らが実際に東北の子どもたちと同じプログラムを体験、間伐材から出来た積み木と楽しみながら触れ合いました。



オルビスでは環境への取り組みを専用サイトでご紹介しています。

<http://corp.orbis.co.jp/csreco/>

【本件に関するお問い合わせ先】(株)ポーラ・オルビスホールディングス コーポレートコミュニケーション室

Tel 03-3563-5540/Fax 03-3563-5543